これを問いたい！ そこが聞きたい！

一般質問

一般質問が12月18日、19日の2日間で行われ、8人の議員が質問に立ちました。

一般質問ってなに？

何を聞くの？
議案と関係なく市の行政事務の状況や将来に対する方針などを質問することができます。

だれがするの？
議員が行います。

いつあるの？
年４回の市議会定例会で行われます。

どのように行うの？
議員が質問を行い、これに対し市長など執行部が回答します。議員の制限時間は、執行部の回答を除き30分となっています。

どこで見られるの？
天草市議会の議場で傍聴することができるほかケーブルテレビやホームページでも中継を行っています。また、ホームページからは過去の中継映像や会議録も閲覧することができます。

議会を見に行こう

一般質問をはじめとする本会議や常任委員会はどなたでも傍聴することができます。また、直接議場へ来ることができない場合でも、本会議はケーブルテレビやホームページで中継を行っています。

※市のホームページはパソコンのほか、スマートフォンやタブレットからも見ることができます。

傍聴に行くには
熊本地震による庁舎分散の影響で、議会は五和町コミュニティセンターで行われています。
（３月定例会の会期日程案は13ページに掲載しています。）
天草市議会議場の場所：天草市五和町御領6692－1（五和町コミュニティセンター）

中継を見るには
ケーブルテレビ、天草市議会のホームページをご覧ください。ホームページは、天草市議会のホームページから、インターネット中継にお進みください。

■ホームページは
天草市議会 検索

通番	質問者	質問事項
1	浜崎　昭臣	①地場産業育成について ②出水駅～蔵之元間シャトルバスについて ③天草市健康診査について ④魚貫町琵琶の首について
2	浜崎　義昭	①天草の地理条件にあった救急車の導入を ②市民からの切実な願い　国保税の引き下げを ③天草の農水産物のブランド化を
3	鎗光　秀孝	①公共交通ネットワークの維持・再編について ②こども動物園建設について ③海岸保全施設の長寿命化並びに高潮対策について
4	中村三千人	①中村市政の検証と今後の課題について ②指名競争入札のあり方について
5	若山　敬介	①天草市小中学校教職員の働き方について
6	池田　裕之	①力強い地域づくりについて ②地域情報化事業について
7	蓮池　良正	①財政健全化の方策 ②公的祝い金の検証 ③学校のあり方
8	赤木　武男	①水銀フリーの取り組みについて ②30歳の成人式開催について ③食品ロス削減に向けて

※次ページからの掲載原稿は、質問者本人が要約したものです。

●地場産業育成（養豚業）について
●天草市健康診査について

浜崎 昭臣
議員

【地場産業育成（養豚業）について】

浜崎 養豚業者のたゆまない、懸命の御努力に敬意を表する。ただ心配なのは、﨑津集落の世界遺産登録を間近にひかえ、たまたま悪臭の時遭遇した数人の観光客からツイッター等ＳＮＳを通じてクレームをつけられ拡散することである。取り越し苦労ならよいが。

経済部長 ８月議会でも調査し、今回再度﨑津観光案内所を含む五カ所に問い合わせたがクレームの類は来ていない。

浜崎 大江地区畜産環境対策連絡会長名で臭気抑制に関する取り組みへの助成要望書が市に提出されているが、要望どおりの実現を望む。

市長 単県補助事業に要望を上げているが、万一採択されない時でも市単独予算で支援する。

【天草市健康診査について】

浜崎 人間ドックの対象年齢が35歳から69歳までになっているが、対象年齢の拡大と定員増のお考えはないか。

市長 「日本一の健康寿命都市」を目指すため、成人を対象とした各種健診事業にも力を入れているが、平成30年度より人間ドック対象年齢を10歳拡大し30歳から74歳までとし、定員も８００人から１，０００人に拡大する。

【魚貫町琵琶の首について】

浜崎 白地であったこの地（１３，５２６㎡）は平成22年９月議会において市の土地として認可。23年６月議会・一般質問において避難所としての要望、24年12月議会・一般質問では「防災公園」の要望。その後平成26年を再交渉の第１回目として数度要望しているが、何の進展もない。今後の計画を問う。

総務部長 平成26年５月に建設部及び牛深支所で現地視察を行った折、当該地は地盤が脆弱で崩壊の危険性が高いので避難場所や公園として整備を図ることは適当でないと判断した。

市長 旧県道沿いに簡易な駐車場として整備できればと考えている。

●軽救急車の導入を
●高くて払えない国保税の引き下げを
●農水産物のブランド化を

浜崎 義昭
議員

【地理的条件にあった軽救急車の導入を】

浜崎 天草市は中山間地が多く存在する地域で、海岸沿いの道路を除けば道幅が狭く、急カーブや急な坂道も多い。狭い道では、通常の救急車では入れない。搬送が必要な患者の自宅や事故現場まで近づけず手遅れになるケースがある。通常の救急車が購入に数千万円かかるのに対し、軽救急車は半額以下で済む。小型救急車を、市民が公平に救急サービスが受けられる体制作りのために導入すべき。

市長 必要な機材を積んでいる救急車内で救命措置を行うことが最良。現段階では導入を考えていない。

浜崎 昨年11月16日水難事故が発生した。その場に救急救命具が配置されていれば、少なくとも事故が軽減できた。住民はもとより、天草市に滞在する人たちの安全を守るのが、自治体の役目。救命用具などをできうる限り、配置することを求める。

総務部長 自主防災組織と連携を図りながら設置を推進していく。

【国保税の引き下げを求める】

浜崎 来年度から都道府県化する国民健康保険の保険料は、現在と比べてどのようになるのか。このままでは、生活ができないという市民の方々の声を国に届け、国庫負担の増額と追加財政措置を求め、国保税の引き下げを行うべき。

市民生活部長 国から３，４００億円が投入され、保険税が急激に上がることがないよう財政措置が講じられる。

【天草の農水産物の地域ブランドづくり】

浜崎 安定的な水産ブランド品を成立させるためには、加工食品へ展開していく必要があると確信している。全国で自治体や団体組織も、各種取り組みを進めている。農業、漁業の収入金額を増やすための対策として、古くから天草で自生する栄養豊かな野菜等を利用し（例）くさぎな、桑の葉の商品化、廃棄されていたキャベツをウニに食べさせ、中身が6倍になり高級食材に変貌）、ブランド化を進めるための取り組みを天草市としても推進すべき。専門的な人員配置を求める。現在、商品開発されている物についても流通、フォロー体制が必要。天草市として援助を行うべき。

経済部長 基本的には取り組む事業者が主体的に行うべきもの。補助事業があるので、活用していただきたい。